

中国のウェディング市場

西尾 麻里

この度、中国飯店協会より「2016年ウェディング市場年度報告」が発表されました。同年の市場規模が246億ドルと推定されている中国のウェディング市場を紹介します。

<結婚登記数の減少>

報告によると、全国における結婚登記数は2013年をピークに年々減少しており、2016年の登記数は1132.9万組で、前年同期比7.5%の減少となりました。減少率が最も多かったのは河南省で、11.1%減となっており、河北省、湖北省、江蘇省と続きます。

現在の結婚主要年代は、「85後（85年～89年生まれ）や「90後（90年～99年生まれ）」ですが、一人っ子政策の時代に生まれた彼らの結婚登記数は、相対的に減少しています。

<地域別の披露宴における平均消費額は上海が断トツ!!>

結婚登記数が減っているにも関わらず、ウェディング市場規模は年々拡大の一途です。2016年の市場規模は2011年のそれに比べると倍増しています。中でも、披露宴市場規模がウェディング市場全体の約35%を占めるほどの成長です。

中国では、(テーブル料金×台数) + α で披露宴にかかる費用を計算します。テーブル料金には料理が含まれており、その食材や料理数などで料金が変わります。報告では、北京市や上海市などの一級都市における1テーブルあたりの単価は、2,000元～5,000元(約33,000円～約82,500円)という価格帯が全体の約半分を占め、5,000元以上の割合も含めると、全体の約7割が2,000元以上を消費しています。一方で、長春市や合肥市、ハルビン市といった二級都市では、同2,000元以下が約半分を占め、桂林市や吉林市などの三級都市に至っては、同1,000元(約16,500円)以下が約半分を占めており、大都市との差が歴然としています。

また、都市別のテーブル平均単価は、上海市が5,201.91元(約85,800円)と断トツの1位で、2位の北京市(2,780.99元)や3位の浙江省(2,767.71元)を大きく引き離しています。同ランキングの上位には、一級都市や新一級都市(大連、天津、南京、蘇州など)が多く含まれていることから、地域の発展状況や消費水準と大きな関係があると分析されています。

このほか、地域別の披露宴一回当たりの平均テーブル数が調査されているのですが、全国平均が24卓とされる中、トップは河北省、江蘇省、重慶市の30卓、上海市や北京市では、全国平均以下の20卓となっています。河北省のテーブル単価が1,170.63元(約19,300円)であることから、披露宴全体では35,118.9元(約57万9,500円)を消費していることとなります。上海では、20卓で104,038.2元(約171万6,600円)もかかり、同市在住の新郎新婦の苦勞が計り知れます。

<新郎新婦の視線は海外へ>

最近では、海外ウェディングやウェディングフォトを海外で撮影するカップルも増えていきます。中国ではウェディングフォトに注力する人が多く、披露宴では2冊以上のフォトアルバムが展示され、等身大に拡大された新郎新婦の写真が入り口でゲストを迎えます。結婚費用の四分の一を注ぎ込むカップルもいるようです。

筆者が出展サポートで参加した「上海世界旅行博覧会」でも、日本を含めた様々な国のブースがウェディングフォトの撮影旅行を紹介していました。地理的優位性もあって、日本への撮影旅行は人気があるようです。

また、中国には「婚博会」というウェディング関連の博覧会があり、上海を含む全国5箇所で年4回も同時開催されています。ここでは、ウェディングフォト撮影や、披露宴会場となるホテル、レストランの他、ジュエリー、披露宴で配るお菓子、送迎用のレンタカーなど、ウェディングに関するありとあらゆる商品が博覧会特価で提供され、結婚を控えたカップルやその両親、親戚など多くの来場者で賑わいます。実は筆者も興味本位で足を運んだことがあります。大勢の来場者でごった返す中を進んでいると、各ブースから争うように声がかかり、

手を引いて連れて行こうとするブーススタッフが現れます。物見遊山程度で訪れてはいけない場所であることを痛感しました。辛うじて見学できた会場で印象に残ったのは、ウェディングフォト撮影を扱うブースの数々でした。特に韓国系の企業がとても多く、衣装やメイクなど韓国の技術をそのまま取り入れている部分と中国文化を応用させた部分がうまく融合された印象を受けました。日系企業のブースは少なく、ジュエリーのエリア、エステ等美容関連のエリアで数社見られただけだったのが寂しく感じました。最近結婚を控え、「婚博会」に数回通う知人によると、併設されている「家博会」（家具の展示会）には、家具・インテリアのニトリや日系家電メーカーが多数出展しているようです。

今後は、飽和状態になった一級都市から二、三級都市への市場拡大が加速し、披露宴単価も更なる上昇が見込まれます。個性的な披露宴への要求も広がり、市場は益々の盛り上がりを見せるでしょう。会場装飾や衣装、ウェディングプランニングなど、日本のセンスが入り込む隙間はまだまだあると感じました。